

空中給油輸送機小牧配備中止を求める申し入れ

小牧基地司令 石野 次男 様

2008年2月29日
不戦へのネットワーク

本日再三延期になっていた空中給油輸送機が正式に小牧基地に配備されます。私たちは給油機導入が明らかになって以来再三にわたって日本に空中給油機は必要ないと訴えてきました。小牧基地への正式配備が決定してからは小牧基地に何度も申し入れをおこなってきました。

日本とアジアそして世界の平和のためには空中給油機は必要ない、小牧基地を海外派兵の拠点としてこれ以上強化しないでほしいという私たちの願いを踏みにじっての本日の配備を、非常に残念に感じていると同時に防衛省、航空自衛隊に対して白紙撤回するよう強く申し入れます。

空中給油輸送機導入は、これからの航空自衛隊のあり方を根本的に変えるものです。日本は専守防衛を国是としてきました。それゆえに空中給油機の導入は行わないと政府は公式に表明していたのです。

戦闘機などの軍用機の航続時間、距離を飛躍的に拡大する空中給油機は日本国外、領域外での軍事行動を前提にしていることは自明のことだったのです。

しかしながら「国際貢献」を名目にした自衛隊の海外派遣が日常化し、ついに戦場であるイラクに派兵しました。国連やP5の枠組みを無視したアメリカ軍との共同行動としてアフガニスタン洋上給油、イラク航空輸送をおこなっています。法律上も海外派兵は自衛隊の本來任務になりました。

空中給油輸送機配備は海外派兵の装備の充実をはかるものです。「敵国」「敵対勢力」の基地攻撃も可能にする空中給油機能とともに大量の人員、物資を迅速に長距離輸送できる航空機を手にした自衛隊は海外派兵を本格化するでしょう。アメリカ軍も自衛隊に期待しています。

イラク、アフガニスタンはアメリカがしかけた戦争が泥沼化しています。アメリカはイランへの拡大も狙っています。世界中の戦争や紛争の最大の火種はアメリカなのです。

世界で最大の戦争国家アメリカとの同盟関係を強化、一体化を日本政府、自衛隊は狙っています。周辺諸国、世界中から恐怖の眼差しでみつめられていることをしるべきです。給油機配備は一層の脅威をあたえるものになります。東アジア地域は軍拡がいまだに進んでいます。各国とも最新鋭の兵器を開発、導入しています。日本の攻撃力強化はますます軍拡競争をおおりにたてることになります。6ヶ国協議などを通じた東アジアの平和の光明を消し去ってはならないのです。日本ができる最大の国際貢献は軍拡競争のトップランナーから決別することです。軍事ではなく平和に貢献できる対話と外交のみを行うことはつきりと内外に表明すべきです。アメリカと同調することだけが国際貢献ではありません。アメリカの基準、価値判断のみがグローバルスタンダードではないのです。

このように今回の給油機導入は自衛隊のあり方、小牧基地の役割を根本的に変えるものです。ですから多くの周辺住民は基地強化の懸念を表明しているのです。しかし、防衛省、自衛隊は給油輸送機も「輸送機」という名称だから輸送機の基地としての小牧のあり方はかわらないと詭弁を弄して周辺自治体の合意をとりつけました。事実や実態を隠蔽しながら既成事実を積み重ねるやり方はゆるすことができないものです。

安全面や騒音などの不安も多くあります。ジェット機による試験や訓練飛行は騒音も拡大します。C-130などの従来訓練にプラスされる試験、訓練は墜落などの危険性の増加にもつながります。安全飛行を唯一の目的にする民間機の訓練とはことなり、軍用機の訓練は戦場での使用を前提にした能力、機能をフルに発揮することを目的にしています。限界ギリギリの試験や訓練もおこなわれます。日常生活への不安はますます一方です。防衛省、自衛隊は空中給油機の任務の目的、役割など必要な情報を周辺住民、自治体に全面公開すべきです。C767給油機は疑惑に満ちています。アメリカ軍は次期給油機に内定しましたが白紙にもどしました。現在もまだ決定はしていません。製造会社ボーイングと国防総省高官との癒着、便宜供与が明らかになったからです。さらに当初リース契約の予定でしたが

価格が新規購入よりも割高になることも判明し議会が反対したのです。巨大な利権をめぐってアメリカの産軍複合団体は暗躍しているのです。日本も例外ではありません、守屋汚職は氷山の一角でしかないので。C767の日本導入はほとんど無競争の状態でした。結論が先にあったのです。こうした経緯は非常に胡散臭いものをおかんじます。こうした疑惑の一切も明らかにすべきです。

防衛省、自衛隊をとりまく市民の目は今非常に厳しいものがあります。先日のイージス艦あたごによる漁船撃沈事件は事故にいたるまでの経緯、事故後の対応の問題だけでなく、事実の隠蔽、情報の操作など防衛省、自衛隊の内局、制服を問わないでたらめな体質が多く怒りをかけています。守屋元事務次官汚職や旧施設庁をめぐっての談合や癒着なども同様です。

沖縄の少女暴行事件などの相次ぐ米軍犯罪や名古屋空港でのC767墜落、米軍機の「緊急着陸」など軍隊や軍事関係の不安は拡大しています。どのような、技術的な再発防止策や配慮も根本的な解決にはなりません。軍隊が戦争という究極の大量殺人を目的にして存在する以上市民生活の日常とは相容れない存在なのです。戦争のためには市民一人一人の人権や生活を守ることは二の次でしかないのです。

本当の平和は軍事力の優劣で生み出されるものではありません。互いの人権を守り、価値を尊重し許容していくこととのなかにしかありえないのです。地球は環境破壊のなかで存亡の危機にあります。宇宙船地球号の乗組員としての役割ることのできない私たちは協力しあいながら未来を創っていくなくてはなりません。子供たちに平和な未来を贈らなければなりません。そのためには最大の環境破壊行為である戦争は掃拭しなければなりません。戦争は協調も生み出しません。憎しみと報復の連鎖しか生み出さないのです。

私たちはどのような理由でも戦争の拡大につながる兵器を導入することに反対します。私たちの日常的な生活の場であるこの地域が戦争の拠点になることに反対します。小牧基地の海外派兵機能強化、拡大になる空中給油輸送機の導入配備を行わないことを強く申し入れます。